

CNJ

Know (≠No) More Cancer 私たちは、もっと伝えたい

Speakers



No.
11

Special Talk ~臨床試験ってどんなもの?
- よくわかる、治験・臨床試験のキホン - /
News / Report / Event Schedule
私たちの草の根活動 / 海外がん医療 TOPICS

臨床試験

中西 洋一
(腫瘍内科医)

秋山 あんじえら
(看護のたまご)

ってどんなもの？

よくわかる、治験・臨床試験のキホン



九州大学病院副院長、呼吸器科長、九州大学呼吸器内科学分野 教授、胸部疾患研究施設長、日本呼吸器学会理事、日本肺癌学会理事（肺がん医療向上委員会委員長）、日本臨床腫瘍学会理事、西日本がん研究機構理事。第57回日本肺癌学会学術集会主宰。

なかにし よういち

中西 洋一

あきやま
秋山 あんじえら

福岡在住の看護学科3年生。日本肺癌学会「肺がん医療向上委員会」の学生広報大使、がん情報サイト「オンコロ」の学生スタッフを務めている。姉は、医学生でアイドルグループ「LinQ（リンク）」の元メンバー・秋山ありす。Facebook「看護のたまご（あんじえら）」<https://www.facebook.com/kangnotamago/>

臨床試験は新薬誕生に不可欠

近年、がん治療、特に薬物療法（薬による治療）が大きく変わろうとしています。従来の抗がん剤に加え、最近では分子標的薬剤や免疫チェックポイント阻害剤など、新しい作用の薬剤がいくつも登場しています。新しい薬が国に承認され、患者さんに届くまでには必ず治験・臨床試験が必要です。そこで、NPO法人キャンサーネットジャパン（以下、CNJ）が発刊する冊子「もっと知ってほしい薬の開発と臨床試験のこと」を監修いただいた、九州大学呼吸器内科教授中西洋一先生に、臨床試験とはどのようなものなのかを伺いました。

秋山 インタビューを担当させていただき、看護学科3年生の秋山あんじえらと申します。中西先生が委員長をされている日本肺癌学会の肺がん医療向上委員会では、学生広報大使を務めています。以前は、姉の「ありす*」も大使としてお世話になりました。本日は、よろしくお願ひします（*ありす…あんじえらさんの姉「秋山ありす」さんは、当時、現役医学部生でありながら、福岡のアイドルグループ「LinQ（リンク）」のメンバーとしても活躍しており、初代の肺がん医療向上委員会の広報大使）。始めに自己紹介をお願いします。

中西 九州大学呼吸器内科の中西洋一と申します。肺がんを中心とした呼吸器（肺）の病気や、特に肺がんの薬物療法を専門にしています。また、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会などの理事を務めています。こちらこそ、ありがとうございます。あんじえらさんにはお世話になっています（笑）。よろしくお願ひします。

秋山 早速ですが、臨床研究や臨床試験とは、大まかにいうと、どのようなものでしょうか？

中西 医学研究は、いくつかの段階を踏んで行われます。まず最初に、がん細胞は正常細胞と比べてどんな違いがあるかを調べる研究、次に、正常細胞には無害でがん細胞には有害な分子や物質を探索する基礎的な研究、さらに、それらの物質をラット・イヌなどに投与し効果や安全性を確かめる動物実験などを行います。そして最終的な段階として行われるのが臨床試験で、ヒト（人間）に対しての安全性、有効性を確かめる研究です。

試験管内や動物で有効性が確認されても、ヒト（人間）では効果がないこと、また効果はあっても毒性が強くないこと、また効果はあっても新しい薬が承認され、広く患者さんに使われるには、臨床試験は不可欠なプロセスとなっています。

秋山 特に、がんにおける臨床試験では、何か違う点があるのでしょうか？

中西 基本的には、どんな薬の臨床試験も方法は一緒です。ただし、臨床試験に参加していただく対象が異なります。良性疾患における最初の試験（第1相試験）での対象者は健康な男性ですが、がんについては、抗がん薬を健康な人に投与することは危険なので基本的にがん患者さんが対象になります。また、いろいろな薬や治療法と組み合わせるの効果を検討する臨床試験も多くなっています。実際にがんの治療を行う時には、他の薬や治療法を併用することが多いためです。

納得できるまで説明を受けてほしい

秋山 患者さんにとっての臨床試験の「メリット・デメリット」を教えてくださいませんか？

中西 メリットは、臨床試験に参加することのみ受けられる薬や治療法があることや、既存の治療法が無効だった患者さんにも効果がみられる場合があることです。しかし、デメリットがないとは言えません。どんな薬や治療法でもそうですが、患者さんにとって好ましくない副作用が出ることや、ヒト（人間）に初めて用いられる薬の場合は、これまで知られていなかった副作用が現れるかもしれません。また、結果的にまったく効果がない試験薬の治療を受けることになる可能性もあります。

秋山 臨床試験を受けてみようとする時、患者さんが気を付けることはありますか？

中西 まず、臨床試験の種類を知っておくことです。臨床試験は3つの段階に分けられます。「第1相試験」は、投与する薬の安全性を確認する試験、「第2相試験」は、決められた用量での有効性と安全性を確認する試験、そして「第3相試験」は、現時点での最善の治療法との比較を検討する試験です。

それから、分からないことや不安なことは、理解できるまで医師に聞くことが大事です。多くの患者さんにとって臨床試験に参加するのは初めてのことだと思いますし、薬や治療法によっては、まだ国内での使用例が多くないものもあります。ですので、納得するまで説明を受けてください。臨床試験を開始した後であっても、患者さんの自由意志で参加を取りやめることもできます。それによって不利益が生じることはありません。

医学の進歩にとって、患者さんはとても重要なパートナーです。ともに協力して未来の医療を作っていけたらと思います。

秋山 がんの臨床試験において、「日本は海外に比べ遅れている」というようなことを耳にしたのですが、実際はどのような現状にあるのでしょうか？

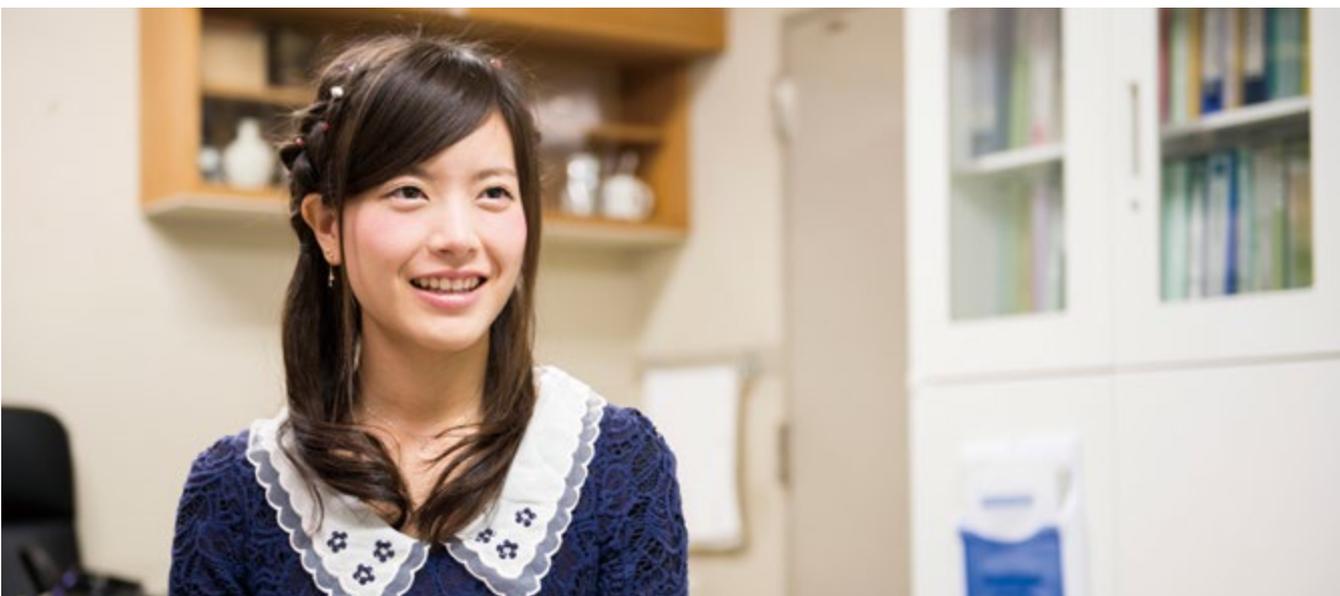
中西 確かに以前は、薬の承認が海外より遅れる「ドラッグラグ」、日本における「がんの臨床試験の空洞化」といった指摘がありました。しかし、近年、日本は海外との間でそれほど大きな差はなくなってきたと言われています。米国との差も縮まってきましたし、EUとは大きな差がなくなったのではと思います。

秋山 これまでに、臨床試験による印象的な発見がありましたか？

中西 臨床試験によって、研究者や医療者の予想を上回る効果を持つ薬が見つかったことです。私を含め、「分子標的薬*」の開発時、その作用メカニズムから、がんは大きくならないが、小さくもならないだろうと思っていました（*分子標的薬：がん細胞特有の分子に働きかける薬）。しかし臨床試験を行ってみたら、これまでの治療が無効であった患者さんが、驚くほど小さくなるという例の報告が相次ぎました。そこからさらに研究した結果、薬の効果と特定の遺伝子の変異が関係していることが分かり、どういった患者さんに効果があるのか分かってきました。

さらに、肺がんの治療薬として昨年承認された「免疫チェックポイント阻害薬*」にも同様のことがいえます。実は、開発の初期段階では多くの研究者や医療者は、免疫チェックポイント阻害薬にそれほど大きな効果を期待していませんでした。しかし実際には、予想を上回る効果が確認されています（*免疫チェックポイント阻害薬：がん細胞が免疫からの攻撃にかけているブレーキを阻害する薬）

臨床試験では意外な発見も





秋山…意外な発見があるものですね。そのような新しい薬の研究で期待されるもの、そして、その他にも新たに研究が始まっている薬はありますか？

中西…免疫チェックポイント阻害薬については、現在8〜9種類が研究されていて、従来の抗がん剤を上回る効果も報告され始めました。また冒頭でもお話ししたように、がん治療においては異なる薬や治療法との併用も行われるため、これまでに使用されてきた抗がん剤との組み合わせも検討されるでしょう。

他にも、遺伝子療法といったような、さらに新しい薬の研究にも期待が寄せられています。

秋山…最後にひとつ質問です。長年臨床試験に関わってこられた中西先生ですが、今後どのようなお仕事をしたいと考えていますか？

中西…今は、引退に向けて準備をしているところです(笑)。今後は、若い研究者の新しい発想を活かせるような場を作ることが私の仕事だと思っています。また臨床試験を含むがん医療を、もっと多くの人に知ってもらうための活動をしていきたいですね。これからは、医師や医療者の枠だけにとどまらない、幅広い協力が重要になってきます。学生さんである秋山さんには、すでに広報大使として協力していただいていますね。

私が主宰して、今年の12月に開催する「第57回日本肺癌学会学術集会」(福岡)では、患者さんやご家族、市民の方々も参加できるプログラムを用意しています。たくさんの方に来ていただきたいと思っています。

秋山…福岡は私の地元でもあるので、ぜひ、参加したいと思います。本日は、興味深いお話ありがとうございました。

文／柳澤昭浩・木口マリ
写真／山地憲太

臨床試験について詳しく学べる冊子 もっと知ってほしい 薬の開発と臨床試験のこと

臨床試験について、もっと詳しく知りたい方は、CNJが2014年に中西洋一先生の監修で発行した冊子「もっと知ってほしい薬の開発と臨床試験のこと」をご覧ください。

近年新しい薬や治療法の開発は急務で、患者さんの協力が欠かせません。この冊子では、薬ができるまでの流れや臨床試験とはどのようなものか、臨床試験に参加するメリット、デメリット、臨床試験の情報を得るにはどうしたらよいかなど、分かりやすく16ページにまとめています。本冊子は、1冊500円以上の寄付でお送りしています。

CNJのサイトより無料でダウンロードができます

<http://www.cancernet.jp/rinshoushiken>

その他の冊子もサイトより閲覧できますので、ぜひご利用ください。



第57回日本肺癌学会学術集会

12月19日(月)～21日(水)に開催
11月6日(日)には市民公開講座も！

第57回日本肺癌学会学術集会では、医師だけでなく、肺がん医療に関わる看護師・薬剤師などのメディカルスタッフを対象としたプログラム、また患者さん・ご家族・一般市民に向けたプログラムも用意しています。

また、12月の学術集会を前に、11月6日(日)には、アクロス福岡にて、医療従事者向けのセミナー、患者さん・ご家族・一般市民を対象とした市民公開講座も開催致します。

近年、肺がん治療の進歩は目覚しく、今年は肺がんに対するいくつもの新しい薬剤が承認となりました。ぜひ、多くの皆さまの参加をお待ちしております。



※最新情報はホームページをご覧ください

第57回日本肺癌学会学術集会公式HP：
<http://conference.haigan.gr.jp/57/>

胃がん啓発キャンペーン 消化器がん専門医対象のウェブカンファレンス テーマは「医療者へ知っておいてほしいこと」

胃がん啓発プロジェクトでは、患者支援の視点より「医療者へ知っておいてほしいこと」をテーマに、消化器がん専門の医療者を対象としたウェブカンファレンスを3回限定で開催しました。毎回、中井美穂さんの司会で、胃がん治療の最新情報とゲストの講演、対談をライブ放映しました。

第1回2015年12月15日は、小西敏郎(CNJ理事)の開会挨拶、吉田和弘先生(岐阜大学医学部附属病院)による「胃がん治療最前線」の講演、西村元一先生(金沢赤十字病院)による「専門医が消化器がんになったとき」の講演、その後、中井さんを交えて対談を放映しました。

第2回1月18日は、馬場秀夫先生(熊本大学医学部附属病院)より「進行・再発胃癌治療の最前線」の講演、近藤明美さん(社会保険労務士)による「がん患者の就労支援から見えてくること」の講演、そして対談をお届けしました。

第3回2月18日は、冲英次先生(九州大学医学部附属病院)より「StageV胃癌に対する手術と化学療法の最新情報」の講演、勝俣範之先生(日本医科大学武蔵小杉病院)より「抗がん剤治療拒否の患者への対応のヒント」の講演、対談後に岩瀬哲(CNJ理事長)の閉会挨拶を放映いたしました。収録映像はすべてご覧いただけます。



第3回「抗がん剤治療を拒否する患者へどう対応するか」の様子



第2回「がん患者の就労支援から見えてくること」の様子



第1回「専門医が消化器がんになったとき」の様子

GI web conferenceページ <http://www.cancernet.jp/gastriccancer/attention.html>

がん体験者と医療者の架け橋企画 サイバーシップの視点から 日常診療を考える機会を提供

CNJでは「がんになっても生きがいのある社会を実現するため」、がんサイバーの声を医療者に届けることも重要であると認識し、さまざまな企画に取り組んでいます。

1月22日は、横浜で開催された第34回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(大会長は横浜市立大の藤内祝先生)でのイブニングセミナーとして、「口腔がんのサイバーシップを支えるために」患者の声から、口腔がんの治療とサポートについて考える」を共催し、会場は立ち見も出る盛況となりました。

病院で診て(見て)いる「患者」は、病院の外では、仕事人であったり、母であったりと、それぞれ役割を持った人として生きています。「患者」が病院外で、どのようにがん向き合っているのか、サイバーの生の声を届けることで、退院後も続く患者の生活に思いを馳せ、病院でどのようなサポートや情報提供が必要なのかを考えた、日常診療を違った角度から見つめ直したりする機会としていただけたようです。

これからも、サイバーの方々の「がん向き合おう」という貴重な体験を、価値あるものとして発信していく機会を創出していきたいと思います。



口腔がん体験を講演した清水敏明さんはOver Cancer Together キャンペーンの卒業生

第1回東京医科歯科大学「がんを考える」市民公開講座 「がんを考える」市民公開講座に約540名 CNJは開催協力&ブース出展!

CNJの東京オフィスと同じ、御茶ノ水駅を最寄りとする東京医科歯科大学では、地域がん診療連携拠点病院の活動の一環として、がんに関するさまざまなテーマの公開講座を行っています。今回、初回となる市民公開講座の開催を、CNJが協力させていただきました。

第1回東京医科歯科大学「がんを考える」市民公開講座は、テーマを「患者・家族のためのがんとの付き合い方」とし、がん種を問わず、がんと診断された方やそのご家族の生活に明日から役立つ情報をお届けすることを目的として、1月24日に開催されました。

「がんを診断されたら受け止め方、周りの人との関わり方」「がんとともに働く」知っておきたい仕事とお金に関する制度」「自分らしい生き方を考える」などの講演をお届けしました。また、CNJのブースでは、現在約20種類を発行している「もつと知ってほしい」シリーズ冊子を配布しました。そのほか、さまざまなテーマのブース展示もあり、がんへの理解が深まる1日となりました。当日は、540名を超える方々が来場されました。

東京医科歯科大学とは、3月21日の大腸がんの市民公開講座「ブルーリボンキャラバン」も共催しました。(P8をご参照ください)



CIN・BEC養成講座

「がん情報ナビゲーター(CIN)養成講座」閉講について

CIN養成講座は第11期をもちまして閉講する運びとなりました。2007年春の開講より9年間で総受講者数は464名、うち248名の認定者が全国で活躍していますが、各地での市民公開講座の開催、動画配信プログラムの充実、また、夏のCancer Forumでは一同に最新治療情報、横断的テーマについても、専門家による講演を全て収録、無料公開しているため、CNJのウェブサイトでも学ぶ場を十分に提供できているとの判断をいたしました。

今後は、新しいコンセプトのプログラムを公開する予定です。受講生の皆さまには益々のご活躍を祈念するとともに、講師の皆さまへこの場をもちまして心よりお礼を申し上げます。

「第11期乳がん体験者コーディネーター(BEC)養成講座」修了

前期・後期合わせて8カ月かけて学んだ、第11期BECの卒業式に当たる全体発表が、3月12日、東京八重洲ホールにて行われました。

今期は、北海道、四国、沖縄など全国から、計37名が受講、最終的に後期に進んだ27名が、新たなBECの仲間となりました。全体発表では、皆さま素晴らしいビジョンを披露してくださいました。これからのご活躍を期待しています。

本講座は、ピアサポーターなどの患者支援を志す人、また、看護師さんなど医療従事者に大変人気です。

2016年度第12期BEC養成講座のお申込みは、5月9日(月)開始予定、開講は7月7日(木)を予定しています。BECの最新情報はFacebookで発信中です。



BEC Facebookページ
<https://www.facebook.com/cnj.bec>

ONCOLO Meets Cancer Experts

がん医療の専門家から本音が聞ける50名限定！究極のがん情報セミナー

第1回は1月22日に「抗がん剤は効かない」の罪、「医療否定本の嘘」などの著書で有名な日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授の勝俣範之先生による「がん医療情報のウソ・ホント」、第2回は2月26日に北里大学医学部附属新世紀医療開発センター教授・北里大学病院集学的がん診療センター長の佐々木治一郎先生による「ブレイクスルー間近…肺がん医療の現状と将来」、第3回は3月25日に慶應義塾大学医学部附属先端医学研究所細胞情報研究部門教授の河上裕先生に「期待される新薬免疫チェックポイント阻害剤とは？」をテーマにご講演いただきました。

OMCEはQ&Aの時間を長くとり、会場からの質問をほぼ全て取り上げるようにしています。ご来場いただいた皆さまから、「講師の本音トークが聞けて良かった」「わかりやすい説明で最新の治療法を学ぶことができた」と好評をいただいています。ぜひ今後のOMCEにもご期待ください。今後のOMCEのスケジュールは、P5またはCNJイベントページをご覧ください。



CNJイベントページ <http://www.cancernet.jp/event>
 OMCE 参加者募集中！ <http://oncology.com/featured/omce>

小児がん・AYA世代のがん体験者研究支援のレモネードスタンド

毎年6月12日はレモネードスタンドデー 皆さまも開催しませんか

CNJでは、2013年から小児がん・AYA世代(思春期&若年成人)のがん体験者支援のレモネードスタンド活動に取り組んでいます。これまで、活動主旨に賛同いただいた全国の保育園・小学校・中学校・高校・大学・企業などがレモネードスタンドを開催していただき、その数は60回ほどになりました。皆さまからいただいた募金の一部は、小児がんの治療研究を行っている、NPO法人日本小児がん研究グループ (<http://jog.jp>) に寄付しました。

アレックス・スコットちゃんが、「レモネードを売ったお金で病気の子どもたちを助けたい！」と始めたレモネードスタンドは、6月12日にアメリカ全州で開催されました。それになんて、毎年6月12日はレモネードスタンドデーとなっています。皆さまも、レモネードスタンドがある6月に、小児がん支援のためのレモネードスタンドを開催しませんか。

CNJでは、6月10日(金)業務終了後に、CNJオフィスにてレモネードスタンドB&Aを開催します。皆さまのご来場をお待ちしています。



ブルーリボンキャンペーン 沖縄県で初めての開催！ ブルーリボンキャラバン2016 in 沖縄

通算25回目となるブルーリボンキャラバン(以下、BRC)を、2月21日に沖縄で開催しました。

沖縄県で初となるBRCは、ブルーリボンキャンペーンンバサダーであり、琉球大学医学部附属病院第一外科助教の佐村博範先生から「沖縄の大腸がんの現状および診断と治療」について詳しくお話をいただきました。また、豊見城中央病院外科腫瘍科部長の照屋剛先生から「大腸がん治療薬」について、有限会社ライブアップ代表取締役の慶田城裕氏から「がん保険の上手な利用方法」についてご講演をいただきました。当日は、約50名にご参加いただき、啓発グッズ・ガイドラインの売り上げは1万5080円、さらに1516円の募金をいただきました。

参加者の皆さまからは、「日常生活(食事、運動等)できちんと対処していくことの大切さを痛感した」「これまでインターネットの情報だけだったが、セミナーを聞き、よりリアルな情報になった。保険のことなど、新たな情報も得られた」「感謝します。これからも他のがん等についてセミナーをお願いします」などの声をいただきました。大腸がんの死亡率が高く、がん検診の受診率が低い沖縄県でのBRCの開催は、大変有意義でありました。



ブルーリボンキャンペーン 3月は国際的な大腸がんの啓発月間！ 今年もたくさんの方に会場いただきました

3月は、国際的な大腸がんの啓発月間です。今年は、第2回東京医科歯科大学「がんを考える」市民公開講座と共催をさせていただきました。昨年までのBRCに比べ、講演内容を更に細分化し、深く広く大腸がんを学べる1日となるイベントになりました。

総合同会は、フリーアナウンサーの中井美穂さん。2月に放送された「徹子の部屋」(テレビ朝日)では、過去に1年間ストーマ(人工肛門)を経験されていたことを明かし、大変な反響がありました。

大腸がんの啓発カラー「ブルー」を身に付けて会場いただくSHOW YOUR BLUE!! コーナーにもたくさんの方にお立ち寄りいただきました。来場者からは、「患者、一般市民向けの言葉になつているスライドも多く分かりやすかった」「どの先生も、どんな人に対しても理解しやすく、優しい口調で話下さり、また患者さんの体験談は資料的に伝わりやすいスライドを用意され、今治療をがんばっている方々が前向きなメッセージとして受け取れるものだと思います」「本日は参加して大変学びになりました」「私が大腸がんになった13年前から比べると大変治療が進歩して来ました。知識は何よりの力です」などのお声をいただきました。当日は、636名の方にご来場いただきました。



Over Cancer Together 第3回「がんサバイバー!スピーキング・セミナー」を開催しました

3月26日に東京・コンGRESスクエア日本橋で、Over Cancer Together(以下、OCT)「がんサバイバー!スピーキング・セミナー」を開催しました。本セミナーは、がんサバイバーが自らの体験を発信する活動を行うために必要な知識やスキルを学ぶことを目的とし、2013年8月に第1回を開催して以来、今回で第3回となります。

今回も全国から20代から70代までの30名の、がんに関する社会活動に関心があるがん患者、遺族が集まりました。中には医師や看護師のがんサバイバーもいらつしやいました。プログラム前半では医療者、メディア等がんに関係するさまざまな立場の人たちからお話を伺い、がん対策における患者の役割、期待されていることを理解した上で、後半に体験談の組み立て、話し方を学びました。

過去2回のセミナーの修了生は、さまざまな場所で活躍されています。第3回の修了生も今後それぞれ活躍されることと思います。OCTは修了生の講師派遣も行っています。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。



OCT WEB サイト
講師派遣のご依頼

<http://www.octjapan.jp>
<http://www.cancernet.jp/speaker/>

各イベント・お申し込みは

4/9
(土)
立川



胃がん啓発キャンペーン
**もっと知ってほしい胃がんのこと 2016
in立川**

企画詳細・お申込み
<http://www.cancernet.jp/17738>

胃がん啓発プロジェクトでは、2016年の市民公開講座第1弾として、4月9日(土)に立川市の立川商工会議所第6会議室にて「もっと知ってほしい胃がんのこと in立川」を開催いたします。

ご登壇は上西紀夫先生(公立昭和病院)、寺島雅典先生(静岡がんセンター)、浜本康夫先生(慶應義塾大学病院)、川口美喜子先生(大妻女子大学)、高橋和奈さん(胃がん経験者)です。後半のQ&Aトークセッションでは当日参加者からのご質問にも応じる予定です。

開催日/4月9日(土) 時間/13:00-16:00(開場12:30) 参加費/無料 場所/立川商工会議所11階第6会議室
(東京都立川市曙町2-38-5 ビジネスセンタービル11F)

4/23
(土)
東京

乳がん市民公開講座
情報の波に乗って、納得の乳がん治療を!
～氾濫するがん情報の中、最善の治療にたどりつくために必要なこと～



お申込みはこちら
<http://www.cancernet.jp/18288>

がんに関する情報が氾濫する中、「情報の波」に翻弄されていませんか。その波にうまく乗り、自分のためになる情報を見極めて、最善の医療につなげるための方法を考えます。

(主なプログラム)

- ・乳がん治療最前線～乳がん手術の目指すもの～ 帝京大学医学部外科学講座 神野浩光
- ・乳がん治療最前線～サブタイプ別最新の薬物療法と臨床試験～ 近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門 鶴谷純司
- ・がん向き合って～患者として、報道記者として～ 報道記者、乳がん経験者 鈴木美穂
- ・がん情報の波に乗る～刺激的な情報や不毛な論争に惑わされず、自分にプラスとなる選択を～ 虎の門病院 臨床腫瘍科 高野利実
- ・Q&A ディスカッション

開催日/4月23日(土) 時間/13:00-16:00(開場12:30) 参加費/無料 場所/帝京大学板橋キャンパス内 臨床大講堂(東京都板橋区加賀2-11-1)
共催/認定NPO法人西日本がん研究機構、帝京大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン、帝京がんセンター、
NPO法人キャンサーネットジャパン

6/10
(金)
東京

レモネードスタンド
**小児がん支援の
レモネードスタンド
BAR開催**

毎年、6月12日は、レモネードスタンドデーです。

「アレックスのレモネードスタンド」の名前は、ご存知の方も多いのでは?今年の6月12日は日曜日にあたるので、CNJでは、6月10日(金)にレモネードスタンドBARを開催します。レモネード×赤ワインのカクテル「イタリアンレモネード」や、「ウィスキーレモネード」「ビール」などアルコールもご用意。ぜひお気軽にお立ち寄りください。1杯500円～。申し込みは不要です。

開催日/6月10日(金) 時間/18:00-21:00
場所/キャンサーネットジャパン東京事務局

特設サイト
<http://www.lemonadestand.jp/>

5/28
(土)
大阪

**第14回日本臨床腫瘍学会学術集会
(JSMO2016)をサポート**

CNJでは、7月28日(木)～30日(土)に、神戸大学の南博信先生が主宰されるJSMO2016の広報と、患者・家族向けのプログラムをサポートしています。

JSMO2016 医療従事者向けセミナー

JSMOは、がん治療のなかでも特に薬物療法の研究を牽引する学会ですが、近年のがん薬物療法の進歩は目覚ましく、この成果を、確実に安全に多くの患者さんに届けるためには、医師をはじめ、看護師や薬剤師などのメディカルスタッフとのチーム医療が重要です。そこで、メディカルスタッフ向けセミナーを開催します。

「メディカルスタッフが知っておくべきがん薬物療法の副作用マネジメントとケア」
開催日/5月28日(土) 時間/13:00-16:45(開場12:30) 参加費/無料
場所/ブリーゼプラザ 小ホール (大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー7階)

企画詳細・お申し込み <http://www.cancernet.jp/18305>

JSMO2016 患者・家族向けプログラム

JSMO2016は、患者・家族向けプログラムも企画・実施予定。3日間、17のコンテンツをご用意して、最新情報をわかりやすく学ぶ機会を提供します。さらに29日(金)には、薬物療法の進歩に不可欠な臨床試験について学び、医療者、患者などの立場の垣根を越え、一緒に考える機会も設けています。

開催日/7月28日(木)～30日(土) 参加費/3,000円(要事前申込)
場所/神戸国際会議場403号室 (PAP会場) (神戸市中央区港島中町6-9-1)

企画詳細・お申し込み <http://www.cancernet.jp/JSMO2016/>

過去のセミナーはキャンサーチャンネルで視聴できます/ <http://www.cancerchannel.jp>

若年がんサバイバー&ケアギバー 集いの場 くまの間

BEC10期・CIN11期生 加藤 那津さん



名古屋で毎月1回、週末または祝日に「若年がんサバイバー&ケアギバー集いの場 くまの間」としてイベントを開催しています。

イベントは3部制で、①ワークショップまたはミニセミナー、②ランチ会、③おしゃべり会となっております、ご興味や体調などに合わせてご参加いただけます。また、毎月1回平日の夕方に「夕方おしゃべり会」を開催しております。

名古屋には若年の患者様が集まる場があまりなく、ないのなら作ってみようとして2015年11月に立ち上げました。働きながら治療をする、その先には働きながら参加できる会を!と活動しています。

- ★ HP : <http://kumanoma.jimdo.com>
- ★ Facebook : <https://www.facebook.com/kumanoma/>
- ★ 連絡先: natsumikan@happy.odn.ne.jp

がんサバイバー&医療者による 写真展を開催

CSS修了生 木口 マリさん



2013年に子宮頸がんが発覚し、手術、抗がん剤治療などを行いました。一時は障害者でもありましたが、それらの経験があったために新しい道が開けたとも感じています。現在は病院スタッフと協力して、サバイバーや医療者から募集した写真と言葉を、

病院内にて定期的に展示しています。「今の私の好きな時間」「治療中に見つけた素敵な一場面」をテーマとした、温かい写真展です。ぜひ一度いらしてください。

また、職業である撮影・執筆のスキルを活かし、講演活動やブログの執筆、CNJ季刊誌の制作などにも関わらせていただいています。

- ★ ブログ : 「ハッピーな療養生活のススメ」
<http://happyyouyoulife.blog.fc2.com>
- ★ Facebook : <https://www.facebook.com/mari.kiguchi>

がん体験者スピーカー(CSS)養成講座 受講生募集中!!

CSS

<http://www.cancernet.jp/training/speaker>

※ BECの2017年度の申し込みは5月9日(月) 開始予定

CNJの乳房再建サポーターや ボランティアとして活躍

BEC9期生 山北 珠里さん



ずっと製薬会社で医療にかかわる仕事をしてきた自分が乳がんと診断された時、胸もキャリアも失いたくない気持ちから、治療を迷ってしまいました。そんなときにCNJを知り、スタッフの皆さんやBECの仲間から勇気と希望をいただいたことで、今では

全摘した胸も再建し、仕事も正社員として続けることが出ています。

今度は私自身の「がんになったことで得られた貴重な出会いと経験」を、「がんになっても変わらず自分らしい生活を送るために迷ったり悩んだりしている人たち」の役に立てることができないかと、細く長くコツコツと、CNJのイベントボランティアや乳房再建スモールミーティングのサポーターをやらせていただいています。

- ★ WEBサイト「乳房再建 on the WEB」で
動画インタビューに協力
<http://www.cancernet.jp/nyubo-saiken/>

がんになっても自分らしくイキイキと 働く×生きる

CIN10期生 砂川 未夏さん



病気をキッカケに「自分らしさ」を考えませんか?

私は、がん罹患後にキャリアカウンセリングと出会い、今大切にしたいことを知り、希望を持ちはじめた経験から活動しています。人は鏡がないと自分の姿が見えないように、自分らし

さも1人では分かりにくいものです。遊び心いっぱいワークショップと一緒に希望のタネを育てていきましょう。

<がん患者・経験者および家族向け>

- 働く働きたいがん経験者のためのパワーチャージカフェ@東京・大森(月1回)
- キャリアカウンセリング de ココロのストレッチ (随時)

<キャリアカウンセラー向け>

- がん等の有病者へのキャリア支援研究会 (日本キャリア開発協会内)
- がん経験のある支援者のための語りラボ

- ★がんキャリア活動記事: 日経ウーマンオンライン
<http://wol.nikkeibp.co.jp/article/trend/20150616/208222/?rt=ocnt>
- ★Facebook : <https://www.facebook.com/cancercareer/>
- ★ブログ : <http://ameblo.jp/happy-survivor>
- ★連絡先 : cancer_career@yahoo.co.jp

本コーナーに登場していただける BEC・CIN・CSSを募集中!

希望者は、下記を添えて、cinbec@cancernet.jp までご応募ください。

- ①原稿(タイトル: 30文字程度 本文: 活動内容を250文字程度)
- ②団体・活動内容が分かるHPアドレスや連絡先など
- ③活動がイメージできる写真1点
- ④氏名・BEC/CIN何期生か・CSSの場合は修了生と明記

※ご応募は掲載をお約束するものではありません。

掲載が決定しましたら、こちらからご連絡させていただきます

海外がん医療 TOPICS

臨床試験(治験)への参加を考える際に

治験を含む臨床試験は、新たな治療法の有効性と安全性を客観的に確かめるために不可欠です。治療法が少ない疾患だけでなく、すでに治療法が確立されていても、より高い効果が期待できる治療の開発に向けて、世界中で様々な研究が行われています。治験や臨床試験で新たな治療法が実証されれば、それにより標準治療も変わっていくのです。

しかし医師から臨床試験参加という選択肢を示されても、患者や家族が臨床試験に対する不安や疑問を抱えたままでは、納得のいく意思決定はできないかも知れません。実際、アメリカでもがん治療の臨床試験に参加している成人患者は5%未満と言われています。患者が臨床試験への参加を躊躇する主な要因は、臨床試験に関する知識が不十分なことや、ネガティブなイメージです。

患者が臨床試験を考える上で、どのような準備や支援が効果的なのか。それを調べるために、個々の患者の疑問に答える短い動画を使ったPRE-ACTと呼ばれる準備教育プログラム、あるいは

は啓発目的の一般的な説明文書を患者ががん治療医と面談をする前に提供し、臨床試験に対する患者の理解度を比べる研究がアメリカで行われました。研究結果によれば、動画プログラムを利用した患者の方が、臨床試験への理解度がより深まり、不安が減っていました。

その一方で、この研究に参加した患者は、動画を見た患者だけでなく、啓発文書を渡された患者も含めて全体の21%という非常に高い率の患者が6ヶ月以内に臨床試験に登録しています。この結果は、動画、文書とも有効であり、媒体は何にせよ臨床試験に関する十分な情報伝達が、患者の意思決定に大きく影響することを示しています。患者側が臨床試験への参加を選択肢の一つとして考えるためには、納得がいくまで臨床試験に対する疑問を解消し、不安をなくすることが第一歩といえます。

情報提供/海外癌医療情報リファレンス (www.cancerit.jp)

CNJ 会員 寄付 募集

NPO法人キャンサーネットジャパンは「患者擁護の観点から、科学的根拠に基づくあらゆるがん医療情報の発信とがん疾患啓発を行うこと」をミッションとして活動する特定非営利活動法人です。

<http://www.cancernet.jp>

CNJ Speakers 季刊誌 2016年 Spring
発行日 / 2016年 4月
編集発行 / NPO法人キャンサーネットジャパン
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2階
電話 / 03-5840-6072 FAX / 03-5840-6073
E-mail : info@cancernet.jp
ホームページ : <http://www.cancernet.jp>

次号
予告

CNJ Speakers 12号は
2016年 7月発刊です

スタッフコメント

Staff comment

皆さん、こんにちは！入職3年目のプロジェクトマネージャー古賀真美です。私はがん患者家族の経験者であり、造血幹細胞ドナーです。2002年の秋に、弟がフィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病を発症しました。当時、臨床試験中のグリベックを服用しつつ、ドナーを探しましたが見つからず、不適合の私がドナーとなって臨床試験のミスマッチ移植に臨みました。おかげさまで弟は完治し、今は趣味のパラグライダーで空を飛び回っています。

闘病当時は振り返ると、あまりの情報の少なさに右往左往しながら、小さな光を探しては繋ぎ合わせる毎日でした。臨床試験は私たち家族にとって光でした。その後、CNJが情報ナビゲーター1期生として、主に血液がんの患者さんのサポートを続けてきましたが、「がん治療は情報戦」だと改めて感じます。ひとりでも多くの患者さんやご家族へ、小さな光が届けられるよう、これからも微力ながら頑張りますので、よろしくお願いたします。



古賀 真美 (こが まみ)
NPO法人キャンサーネットジャパン
プロジェクトマネージャー

がん体験者によるピアサポート

家族や職場にどう話したらいいの？
再発への不安な気持ちを話してみようかな...
がんと言われて不安な気持ちを誰かに聞いてもらいたい...

開催場所日時	開催場所	開催日時	相談時間	相談内容
開催場所日時	済生会横浜市南部病院 (横浜市港南区港南台 3-2-10)	毎週月・金曜	11時00分～16時00分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)
	横浜労災病院内 (横浜市港北区小机 3211)	毎週火曜	10時30分～15時00分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)
	ピアサポートよこはま (横浜市中央区桜木町 1-1-56)	毎週水・金曜	10時00分～14時30分	電話相談および面接相談 電話：045-681-5255
	相模原協同病院内 (相模原市緑区橋本 2-8-18)	第1・3水曜 / 2・4木曜	10時00分～15時30分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)
	横須賀共済病院内 (横須賀市米が浜通 1-1-6)	毎週木曜 (乳がんのみ)	10時00分～15時00分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)
	大和市立病院内 (大和市深見西 8-3-6)	毎週金曜	10時00分～14時30分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)
	藤沢市民病院 (藤沢市藤沢 2-6-1)	第1・3水曜 / 2・4木曜	11時00分～15時30分	面接相談 (電話での相談は行っていません。)

悪性胸膜中皮腫の治験が始まります。

がんの中でも治療の難しい「悪性胸膜中皮腫」のより良い治療法を確立するため、これまでになかった「遺伝子治療」の開発が日本で進められています。

このほど、世界に先駆けて遺伝子治療の臨床試験（治験）が行われることになり、現在、参加していただける患者さまを募集しています。

がんの遺伝子治療の新たな一歩を踏み出すため、治験にぜひご参加ください。



参加希望の方やこの治験について詳しく知りたい方はこちらからお問い合わせください。

 お電話の場合

0120-963-787 

 パソコン&スマホの場合

<http://オンコロジー.com/lp/chuhishu>



お電話受付時間 10:00～20:00（月曜日～土曜日）/ 募集期間 2016年11月30日（水）まで

※ 携帯・PHSからもご利用いただけます。 ※ 本広告は杏林製薬株式会社からの委託による治験広告となります。

- ご参加いただける方：悪性胸膜中皮腫と診断されている方 / 右記地域の指定された医療機関に入院・通院が可能な方（東京都中央区、兵庫県西宮市、岡山県岡山市）
- 注意事項：かかりつけの主治医がいらっしゃる場合は主治医にご相談の上お問い合わせください。/ 医療機関への直接のお問い合わせはご遠慮ください。/ 参加の基準に合わない場合や募集の定員を超える場合など、ご参加いただけないこともございますので、予めご了承ください。